

1 児童の実態

前改善プランの定着目標の達成状況について、国語では漢字の書き取りや知識技能を問う基礎的な問題などの基本的な学習は、概ね目標値に達することができた。一方で、条件を読み取り、それに合わせた書き方を考える力について、小樽市確認テストの結果からは1年生以外目標を達成することができなかった。前年度に引き続き、授業や教育活動の中で児童自身が情報を整理したり、活用したり、まとめたりする場面を設定していく必要がある。算数では国語同様、単元末テストでは正答率が高い一方で、小樽市確認テストの結果からは6年生以外目標を達成することはできなかった。

令和7年度全国学力・学習状況調査では、国語科は全国の平均正答率をやや上回り、算数科は全国の平均正答率を下回ったものの、全道の平均正答率と同等の結果となった。国語では「読むこと」、算数では「測定」領域が他領域と比べ正答率が低く、定着目標の達成状況においても顕著になった「条件を読み取る力」が課題である。標準学力調査では、3年、5年ともに国語科・算数いずれの教科も全国平均正答率を大きく下回り、特に3年国語科、算数科の落ち込みが顕著となった。国語科では3年「読むこと」、5年「書くこと」領域、算数科では3年「測定」領域、5年「データの活用」領域の正答率の低さが課題である。

全国学力・学習状況調査の児童質問では、課題解決に向けた主体的な取り組み、友だちと話し合う活動に対する肯定的回答がいずれも90%以上、ICT機器の利活用については「ほぼ毎日」の回答が100%となり、ICT機器を活用し主体的で協働的な学びの充実が図られていることが読み取れる。一方で学習した内容を見直し次につなげることについては肯定的回答が全国を上回っているものの、否定的回答が13%あり、学習内容を振り返る活動をより一層充実させる必要がある。

また、本校実施の児童アンケートの結果、スクリーンタイム『午後9時まで使用を止める』を達成している児童は、低学年86%、中学年70%、高学年57%となり、学年が上がるほど目標(80%以上)を大きく下回った。

3年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習の漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上)
4年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習の漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上)
5年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習の漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上)
6年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習の漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上)

<算数科>

学年	定着目標
1年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算ができる。(単元末のテストにおいて95%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)
2年	<ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算の計算、かけ算九九ができる。(単元末のテストにおいて85%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)
3年	<ul style="list-style-type: none"> かけ算の筆算ができる。(2・3位数×2位数)・わり算の計算ができる。(単元末のテストにおいて85%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)
4年	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算ができる。・小数のたし算・ひき算ができる。(単元末のテストにおいて85%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)
5年	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算・わり算ができる。 (単元末のテストにおいて85%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)
6年	<ul style="list-style-type: none"> 分数のかけ算・わり算ができる。(単元末のテストにおいて85%以上) 筋道を立てて考え、正答を導き出すことができる。 (2学期末チャレンジテストにおいて全道平均以上)

2 学年ごとの定着目標 (数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習のひらがな・カタカナ・漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率90%以上)
2年	<ul style="list-style-type: none"> 条件に当てはめて書く。(朝学習における「条件に合わせて書く活動」の取り組み月1回以上) 既習の漢字の定着 (学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上)

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(100%)
2年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
3年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
4年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
5年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
6年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①授業に臨む姿勢や返事、発表の仕方などの学習規律について、小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した取組を促進する。
- ②個のニーズに合わせた学習環境の整備と支援を実施する。
- ③朝学習・朝読書の時間を設定し、落ち着いた学習活動のスタートを図る。
- ④専科加配教員や学習指導加配教員を活用し、専科指導、T・Tや習熟度別による指導など学習内容の定着や学習意欲の向上を図る。
- ⑤放課後学習会や長期休業中の学習会を設定し、基礎学力の定着と底上げを図る。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①全国学力学習状況調査や標準学力調査、チャレンジテスト等の各種客観データにより定着度を把握し、指導に生かすとともに課題が見られる問題を複数回取り組ませる。
- ②小樽の授業づくり5つのSTEP!!!に基づく実践を積み重ねるとともに「自己決定の場」を必ず授業に位置付ける。
- ③朝学習において「条件に合わせて書く活動」を取り入れ、全校共通の取り組みとして実施する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した家庭学習の取り組み方を具体的に提示し、学校と家庭が一体となった連動性のある学習習慣の基礎を築く。
- ②家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の点検や励ましを継続的に行うとともに、「家庭学習がんばり習慣」を設定し、意欲的な取り組みを図る。
- ③「早寝、早起き、朝ごはん運動」や「おたるスマート7」「アウトメディア」等を保護者へ啓発するとともに、「生活リズムチェック」で実態を把握し、改善に向けた方策を推進する。

4 実施計画

年月日	計画内容
R8年	
4月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点・自己分析
	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） ・放課後学習会の実施（通年）
5月	○標準学力調査結果分析 ・これまでの全国的な調査の課題が見られる調査問題の実施
6月	・「家庭学習がんばり習慣」の実施
7月	・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・端末を活用した児童アンケート（1回目）の実施
8月	・（夏季休業中）サポート教室の実施 ・チャレンジテスト（1学期サポート問題）の実施
9月	○R8全国学力・学習状況調査結果分析 ・端末を活用した生活リズムチェック（1回目）の実施 ・「家庭学習がんばり習慣」の実施
10月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善 ・児童アンケート（2回目）の実施
11月	・これまでの全国的な調査の課題が見られる調査問題の実施
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・（冬季休業中）サポート教室の実施
R9年	
1月	・生活リズムチェック（2回目）の実施 ・週末課題の取り組み（～3月）
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・これまでの全国的な調査の課題が見られる調査問題の実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①～④自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案
- ⑤児童の参加率の統計データ収集と分析

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①全国学力・学習状況調査、標準学力調査、チャレンジテスト、確認テストの結果における、全国・全道平均と本校の結果との経年比較等による課題と成果の検証
- ②③自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①～③自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案および保護者会や個人面談、学校運営協議会での説明と情報収集